

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第34回 生きる力は、少しの勇気が連れてくる

ねえ、戸沢さん
とうとうこんな遠くまで、来ちゃったよ。
ねえ、
子どもたちの歌が聴こえる？

子どもたちの澄んだ歌声を聴きながら、自分でも信じられないぐらい、涙が止まらかったミャンマーツアー。

ミナミの国の子どもたちに、本物のエンターテインメントを聴かせたいと企画した、心魂プロジェクトのミャンマーツアー「あなたへの贈り物」。心魂プロジェクトとは、元劇団四季や宝塚のミュージカル俳優が中心となって、難病の子どもたちのために、病院にミュージカルをデリバリーしているNPO法人です。

開催までの経緯については、先月号に詳しく書いたので、そちらをお読みくださいね。

ともあれ、10日間にわたって、ヤンゴン市内の国立子ども病院や、自閉症児のトレーニングセンター、日本人学校、インターナショナルスクールなど、6箇所を回って、プロフェッショナルによる歌と踊りとミュージカルを、子どもたちに楽しんでもらおうという試みは、大成功でした。

日本と異なり、ミナミの国の病院は完全看護ではありません。子どもが入院するとなると、その間、親もずっと付き添わなければならないのだそうです。しかも国立の子ども病院は、ミャンマー全国に3箇所しかないため、当然、地方に住む小児がんや心臓病の病児たちもたくさん、治療にやってきます。

そのため親たちは、兄弟を連れて、2〜3週間とか1〜2ヶ月もの間、泊まり込みをしなければならぬとか。しかし、病院内に家族のための宿泊施設が用意されているわけではありません。かと言って、家族揃って長期間、ホテル暮らしをする金銭的余裕など、あるはずもありません。

ではどうするかというと、病院の中庭にビニールシートを敷いて、そこで何日も暮らすのです。

言われてみると、病院の敷地の中の、多分「決められた」スペースには、本当にたくさん家族たちが気怠そうに寝転んでいました。木と木の間にかけたロープには、洗濯物が風に揺れています。

入院している子どもたちはもちろん、心配で胸が張り裂けそうなお母さん、一緒に野宿を強いられている幼い兄弟児たちに、心魂プロジェクトの歌声を届けたい!

そんな想いで、彼らを公演が行われるホールに誘います。

今までミュージカルなど観たこともないであろう彼ら。ましてや、病院にまでプロがやって来て、目の前で、ライオンキングやアナ雪のナマ歌が聴けるよなんて言われても、疑心暗鬼。最初は、どうせ暇だから、

ちょっと覗いてみようか程度のかるい気持ちで腰をあげたのが、ありありと見えました。

けれど、公演が始まった瞬間、会場の雰囲気は一変します。日本語の歌など、まったく歌詞は理解できていないはずなのに、皆の顔が輝き、食い入るようにステージのパフォーマーたちを見つめます。

会場のあちこちで、スマホを取り出し、写真を撮る人や録画を始める人たちも。

こんな素晴らしい体験は、自分一人ではもったいないから、田舎に帰って、村の人皆に観せてあげたいと、真っ黒に日焼けした顔をくしゃくしゃにして話してくれたお父さん。

公演が終わったあと、ずっとそばを離れない、生まれてからずっと病院のなかで暮らしているという小頭症の女の子。

訪問するすべての施設で、おそらく一生に二度とはない、宝物のような体験をプレゼントできたのではないかと思います。まさにツアーのタイトルどおり、「あなたへの贈り物」です。

そして冒頭の「それ」は、児童養護施設ドリームトレインを訪問したときのサプライズでした。

ドリームトレインは、これまでもカレラーやソフトボールセットをプレゼントしたり、子どもたちと一緒にキャッチボールをしたりと、何度も交流があるので、馴染みの場所です。今回の心魂ツアーも、あの子どもたちが喜ぶ顔が見たくて企画したと言っても、過言ではありません。

期待どおり、ツアーメンバーを乗せたマイクロバスが近づくと、待ちきれない子どもたちが門の外まで出迎えてくれ、ミキサーや照明など日本から持ち込んだ重い機材を、軽々と運んでくれます。



◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

普段は子どもたちが寝起きするスペースを借りて、まずはステージ造りからスタート。午後からの本番に備えて、午前中はリハーサルです。

ふと気がつくと、ドアや窓の向こうに、歌声につられてたくさん子どもたちが、興味津々、覗き込んでいるではありませんか(^o^)/☆

一曲終わると、拍手また拍手!まるで、本番さながらの熱気です。

そして、本番。180名の子どもたちのために、2回に分けてのステージです。

ドリームトレインは、日本人医師が運営している児童養護施設なので、子どもたちを支援している日本人の里親がたくさんいるのだそうです。そこで、彼らに日本の風景を見せてあげたいと、スライドも用意し、他の施設では歌わなかった日本の歌に重ねます。

もちろん、ナンバーの中には、戸沢暢美が遺した、子どもたちに贈る言葉「未来の扉」も含まれています。

「キミの未来はキミの手の中」

「生きる力は、少しの勇気が連れてくる」

「未来の扉」は、子どもを持たなかった彼女が、自分の生命を未来につなげたいと願って、まだ見ぬ子どもたちに届けて欲しいと、私に託したメッセージです。

1時間半のステージは、あっという間に終わってしまいました。はじめて観るプロのダンスとナマ歌の迫力、瞬きもできないくらい、夢中で見つめる子どもたち。

きっと珠玉のような忘れられない思い出になったに違いないと思います。

すると今度は、子どもたちが私たちの



ために、踊りと歌をプレゼントしてくれるというではありませんか!

ダンスは、おそろいのTシャツを着た30名程度の高校生によるヒップホップ。おそらく今日のために、相当、練習をしたのではないかと思います。

そして、冒頭の歌のシーン。

中学生まで含めて、100名程度の子どもたちが、声をそろえて、キロロの「未来へ」を、綺麗な日本語で合唱してくれたのです。子どもたちの歌声を聴いているうちに、私は、涙が止まらなくなってしまいました。

いえ、

泣いていたのは私ではなく、

戸沢暢美だったような気がしてなりません。

クライアントだった戸沢暢美から、自分がいなくなった後の遺産の処分を託され、設立した戸沢暢美財団。オンナ1人で、自分の才能だけを頼りに生きた彼女です。そんなにたくさんのお金が遺った訳ではありません。

最初は、そのお金を有効に使えば、私の役目は終わりだと思っていました。

けれど、活動を続けるうち、少しずつ考え方が変わってきました。彼女から託された「想い」を次の世代に伝えること、彼女が生きたかった人生を、文字どおり彼女の方まで生きること、それが彼女から託された願いだと、思うようになったのです。

人は亡くなっても、想いは残る。その人のことを忘れない人がいる限り、人は死なないのだ。

そんな風にして、人は生き続けていくのだ…と。子どもたちの歌声を聴きながら、しあわせな本当にしあわせな涙を流すことができました。

ねえ、戸沢さん

聴こえるでしょ?

子どもたちが、あなたのために歌ってるよ。

好評
発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が
知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著(中経出版)

1,300円+税

アタマのいい人と勉強できる人は違います。勉強できる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。がんばっているのだけれど、なぜか結果でない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指したくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

7人家族の主婦で
1日3時間しか
使えなかった私が
知識ゼロから
難関資格に
合格した方法

合格率10%以下の
難関資格に
ストレートで合格した
驚異的なメソッド公開!